

青年就農給付金／農業次世代人材投資資金を活用した先輩農業者のすがた(新規就農されたみなさん)
～北陸・東海・近畿地方～

【経営開始型】

営農類型 採択年度	米麦等	野菜等	果樹	花き・花木	畜産
令和2年(2020年)		福岡県 立石 宜丈 さん 宮崎県 保坂 政孝・美幸 さん			
令和元年(2019年)		京都府 山崎 将司 さん			
平成30年(2018年)		福井県 江尻 智子 さん	石川県 中田 徹 さん	茨城県 青山 昌之 さん	
平成29年(2017年)	※山形県 阿部 陽介 さん ※富山県 各川 豊章 さん ※兵庫県 中井 勇一 さん	神奈川県 宮上 透 さん ※富山県 各川 豊章 さん ※兵庫県 中井 勇一 さん 徳島県 武市 志津香 さん	※山形県 阿部 陽介 さん	高知県 森田 彬平 さん 長崎県 匿名希望 さん	
平成28年(2016年)		岐阜県 加藤 敦士 さん 島根県 石橋 賢一郎 さん	長野県 米本 真之・宗美 さん	鹿児島県 遠藤 仁司 さん	
平成27年(2015年)		宮城県 結城 翔平 さん ※山形県 岡部 洋介 さん 群馬県 高辻 雄介 さん 千葉県 橋本 望 さん 山梨県 近藤 慎吾・かおり さん 愛知県 山本 明孝 さん ※山口県 榎谷 紘司 さん	※山形県 岡部 洋介 さん ※山口県 榎谷 紘司 さん		北海道 黒田 昌孝 さん 栃木県 相場 博之 さん
平成26年(2014年)		埼玉県 前田 寿樹 さん 新潟県 飯吉 俊郎 さん	山形県 鎌田 悠佑 さん		
平成25年(2013年)		静岡県 久保田 尚徳 さん	和歌山県 山本 祐示 さん		
平成24年(2012年)		鳥取県 木本(夫妻) さん 香川県 梶原 浩一郎 さん	奈良県 梨子本 亘希 さん		

注:平成25年度以前の採択者については、親元就農のリスク要件が導入される以前の事例も含まれております。

※ 複数の類型で営農

飯吉 俊郎 さん（39歳）

（営農類型：露地野菜）

新規就農までの経緯・背景

就農前は千葉県で他業種に従事していたが、農業に魅力を感じて就農を目指した。

農業経験が無かったため、H23年から3年間、農業の研修を行った。最初の1年は津南町の農業公社へ従事し、その後は2年間、地元農家の下でアスパラガスの生産技術や経営管理等の研修を行いながら、準備型の給付を受けた。そして、H26年に独立し農業経営を始めた。

資金の活用例

生活費

（経営初期の所得が上がらない時期に、生活費に充てることができた）



経営発展のポイント

- 普及指導センターやJAに相談をしながら、雪下にんじんの均一な発芽管理や、ネギの収穫・調整作業の労力分散など、品目毎に管理作業のポイントを抑えることで売り上げを拡大した。
- R2年5月に家族経営協定を締結し、夫婦間の役割分担を明確化しながら情報共有を徹底することで、作業の効率化を図った。
- 家族経営協定をベースにR3年3月に（株）フィールドボックスを設立し、新たに雇用を増やしたことで経営規模の拡大に繋げることができた。

今後の取組

- より高単価かつ低コストで販売できる販路を開拓していくことで、利益率の向上を図る。
- 臨時雇用者の高齢化等に対応するため、ネギの全自動収穫機械の導入などにより作業の省力化を進めていく。

経営の推移と今後

経営初期（1年目・H26）

アスパラガス 200a
（作付面積）

- H26年度に経営開始
- 農地は農業公社等から借入
- 関係機関の助言を受けながら栽培管理などを試行錯誤

5～7年目（H30～R2）

アスパラガス 150a
雪下にんじん 50a
ネギ 30a
その他 250a

- 収益性の高い品目を優先して作付けし、所得向上
- R2年度に青年農業士認定（県内初の夫婦同時認定）
- R2年度に法人設立

現在（9年目・R4）

アスパラガス 350a
雪下にんじん 150a
ネギ 200a

- 常時雇用者2名を含めた作業体制を構築
- 作業の効率化により経営規模を拡大し、安定した所得を確保

今後の目標

- 販路拡大による利益率の向上
- ネギの全自動収穫機械の導入など、作業の省力化を検討



富山県

各川 豊章 さん（40歳）

（営農類型：水稻＋野菜）

新規就農までの経緯・背景

関東で不動産会社に勤務していましたが、いずれは富山に戻り起業したいと考えていました。実家が農家であったため、農業も候補の一つでした。帰省の際に「とやま農業未来力レッジ」の開校を知り、思い切って仕事を辞めて入校、卒業後は先進農家の元で1年間研修し、実家の農業を継承しました。

資金の活用例

- ・生活費
- ・運転資金



経営発展のポイント

- ・既存の水稻と露地野菜に加えて施設野菜（小松菜）を取り入れた結果、収益性の向上に成功した。
- ・小松菜の販路拡大のためパッケージを工夫するとともに、小売店に飛び込みで営業をかけ、ほとんどを直接販売している。
- ・そのほか、収益の改善と支出の削減に取り組み、経営開始3年目から農業所得が黒字に転換している。

今後の取組

今後の目標は、水稻栽培の一層の効率化に取り組み、経営規模を拡大することです。地域の農家の高齢化が進んでおり、耕作されない水田も徐々に増えてきています。地元で一緒に農業を担う仲間を増やして、地域の活性化や農村振興などにも取り組みたいと考えています。

経営の推移と今後

経営初期（1～2年目）

水稻 3.5ha
小松菜 18.4a
（ハウス7棟）



3～5年目

水稻 4.2ha
小松菜 18.4a
（ハウス7棟）



今後の目標（～10年目）

水稻 6.5ha
小松菜 18.4a
（ハウス7棟）

- ・平成29年に経営開始
- ・給付金は主に生活費に充てた。
- ・国と県の事業を活用してハウスを整備。

- ・収量、単価の向上や作業工程の見直しにより、3年目から黒字に転換。
- ・給付金の交付終了とともに認定農業者となる。

- ・所得目標は500万円
- ・高齢化により耕作されなくなった地域の水田を引き受ける。

石川県

中田 徹さん (30歳)

(営農類型：果樹[なし])

新規就農までの経緯・背景

祖父の水稲経営を継いでいた兄から農業に誘われたが、兄とは異なる作物に取り組みたいと思っていたところ、普及員から「規模縮小するなし園を継がないか」と勧められ就農を決意

経営発展のポイント

- ・就農前に、いしかわ農業総合支援機構が運営する実践研修「いしかわ耕稼塾」で1年間基礎技術を学ぶ
- ・離農者からなし園を引き継ぎ、初期投資を極力抑え経営を開始
- ・就農当初は栽培技術も未熟だったが、生産組合の研修会や若手農家で開催している勉強会に積極的に参加し、栽培技術を習得
- ・産地内の管理できなくなったなし園を引き受け、規模拡大
- ・労力補完や経営安定のため、兄と農業法人を設立

資金の活用例

- ・生活費
- ・運搬車等の機械や生産資材の購入資金



今後の取組

- ・栽培技術をさらに向上し、高品質果実の生産に励みたい。また、経営管理や労務管理についてもスキルアップし、今後の経営に生かしていきたい。
- ・産地内の離農園を引き受け、産地規模の維持に努めたい。

経営の推移と今後

経営初期(1年目)

なし 55a

- ・平成30年に経営開始
- ・農地、施設を借入
- ・資金は、機械や資材の購入のほか、生活費に充てた
- ・農業所得は約△50万円



2～3年目

なし 81a

- ・産地内の管理できなくなったなし園を引き受け規模拡大
- ・技術習得に励み、収量安定
- ・農業所得は約120万円



現在(4～5年目)

なし 140a

- ・新たに産地内からなし園を引き受け規模拡大
- ・規模拡大にあわせて、労働力を確保
- ・農業所得は約350万円
- ・兄と農業法人を設立(R4.3)



今後の目標(6～8年目)

なし 200a

- ・栽培技術の向上による所得向上や労務管理の徹底など、法人運営の安定化
- ・産地内のなし園を引き受け産地規模の維持に努める

福井県

江尻 智子さん（46歳）

（営農類型：施設野菜）

新規就農までの経緯・背景

- ・大阪にて13年間民間企業に勤務していたが、モノづくりや作物の栽培に興味があり、また以前より田舎暮らしに憧れていたことから、一生できる仕事として「農業」を選んだ。

経営発展のポイント

- ・ふくい園芸カレッジに入校し、1年目は栽培技術の基礎を学び、2年目は就農予定地での里親農家研修にて、地区の主要品目の栽培技術を習得できた。また、里親農家の紹介で、就農前より地域の農業者と交流を図ることができた。
- ・JAのリースハウスを活用するとともに、同時期に就農した園芸カレッジ生らとトラクターを共同購入するなどし、就農初期の費用を抑えた。
- ・就農2年目にハウス1棟、3年目にハウス3棟を増棟し、計画的に規模拡大を進めた。

資金の活用例

- ・生活費



今後の取組

- ・ハウス管理の自動化やハウス内環境の見える化など先進的な技術を積極的に導入する。
- ・JA出荷の他、新たな販路を開拓し、所得向上を目指す。

経営の推移と今後

経営初期（1年目）

ハウス のべ33a（5棟）
（ミディトマト、スイカ、コカブ、ダイコン）

- ・平成30年に経営開始
- ・病害の多発により初年度の農業所得はマイナス

2～3年目

ハウス のべ35.4a（6棟）
（ミディトマト、スイカ、コカブ、ダイコン、ブドウ）

- ・新たな品目として「ブドウ」を導入

4～5年目

ハウス のべ59.4a（9棟）
（ミディトマト、スイカ、コカブ、ブドウ）

- ・ハウスを増棟して規模拡大
- ・常時雇用により労力を確保し適期作業を実施
- ・R4に販売額1,000万円到達

今後の目標（6～8年目）

ハウス のべ59.4a（9棟）
（ミディトマト、スイカ、コカブ、ブドウ）

- ・栽培技術向上による生産量確保
- ・野菜の他、ブドウでの収益や顧客確保
- ・目標販売額1,200万円

岐阜県

農業次世代人材投資資金（経営開始型）

加藤 敦士 さん（40歳）

（営農類型：施設野菜）

新規就農までの経緯・背景

（有）健康やさい村に勤めていたが、当時より独立希望であったことから平成28年4月より神戸町で独立し就農。

経営発展のポイント

- ・経営2年目に、栽培品目を追加し契約出荷に特化した生産に取り組み、2年目から農業収入を大きく増加させることができた。
- ・資金を利用して、機械の導入やハウスの増設に力を入れることにより、生産規模の拡大及び所得の増大に成功している。

資金の活用例

圃場施設の導入



今後の取組

規模拡大に伴う人材確保に向けて、農福連携事業等を利用して人材確保を図り収益の増大を図る。

経営の推移と今後

経営初期（1～2年目）

小松菜・グリーンねぎ
34a（ハウス13棟）

- ・平成28年に経営開始
- ・経営開始時より土地を借入することができ順調に開始することができた。



3～4年目

小松菜・グリーンねぎ
60a（ハウス22棟）

- ・ハウス付の土地を借りうけることができ投資資金を抑えつつ面積の拡大に成功。



現在（5年目）

小松菜・グリーンねぎ
100a（ハウス36棟）

- ・空き地等に補助事業を活用して作付け面積の更なる拡大を図る。



今後の目標（6～8年目）

小松菜・グリーンねぎ
100a（ハウス36棟）

- ・栽培品目の追加を図り、収益の増大に努める。
- ・農福連携事業を活用し、雇用や設備の整備を行っていく。

愛知県

やまもと

あきたか

山本 明孝 さん（37歳）

（営農類型：施設野菜[イチゴ]）

新規就農までの経緯・背景

祖父母がイチゴ農家だったため、農業を身近に感じていた。
将来農業で独立したいと考えるようになり、豊橋市の優良農家で3年半研修後、独立自営就農した。

経営発展のポイント

- ・高設栽培で開始。就農1～2年目は特に苗づくりに苦労したが、研修先農家や同じ部会員の仲間のアドバイスを参考に改善に取組んだことで、それ以降は安定して苗を生産できるようになった。
- ・4年目の規模拡大において、青年等就農資金の特例を活用し、地域ではまだ事例が少ない可動式ベンチを導入したことで、苗数が導入前の1.5倍となり、反収増加及び施設の有効活用ができた。
- ・6次産業化に取組み、独自の販路を確保した。

資金の活用例

資材の購入
生活費の維持



今後の取組

- ・自分の直売所を持ちたい。また、削りいちご以外の加工品にも取組みたい。
- ・雇用者が働きやすいように、雇用環境を整えたい。

経営の推移と今後

経営初期（1～2年目）

イチゴ 24a
（ハウス1棟）

- ・平成27年に経営開始
- ・育苗で苦慮
- ・農業次世代人材投資資金及び妻の農外所得で生活費を確保



3～4年目

イチゴ 33a
（ハウス2棟）

- ・可動式ベンチを導入したハウスを建てて規模拡大を実施
- ・農業所得は約220万円



現在（7年目）

イチゴ 33a
（ハウス2棟）

- ・昨年からの6次産業化として、冷凍削りいちごの販売に取組む
- ・農業所得は約1,000万円



今後の目標

イチゴ 43a
（ハウス3棟）

- ・直売所の設置など、事業の多角化に取組む

山崎 将司 さん（45歳）

（営農類型：露地野菜）

新規就農までの経緯・背景

前職である種苗会社で勤務していた際に野菜を栽培することの楽しさを感じ、また全国各地で野菜栽培に取り組まれている農家の方々の経営を見聞きする中で自分でもできるのではと思い農業を始めようと考えた。

経営発展のポイント

- 限られた面積で経営を安定化させるため、品種をうまく組み合わせるなど端境期ができるだけ少なくなるよう綿密に栽培計画を立てている。
- 直売所出荷がメインであるため、他の生産者が作っておらず、カラフルな野菜など商品として見た目のよい品目を選択。新規品目を導入する際は3年程度生産してから本格導入するかを判断している。
- 販売する際には、食べ方を紹介するポップの設置、ラベルのデザイン、荷姿の改良など直売所への来場者の購入意欲をかき立てる工夫をしている。

資金の活用例

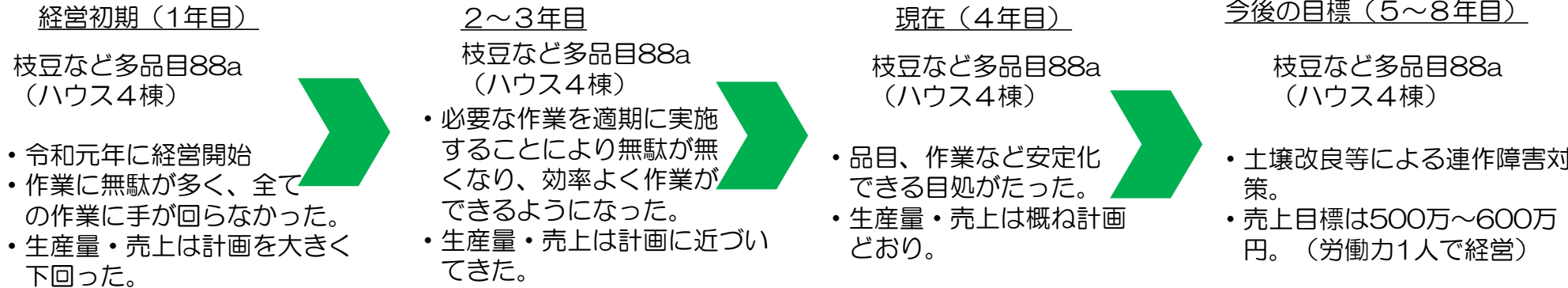
管理機などの農業機械の購入



今後の取組

連作等により土壌病害などが発生するようになったので、土作りを改善していきたい。
経営の安定化のために今後の品目構成や販路拡大などもさらに検討していきたい。

経営の推移と今後



兵庫県

中井 勇一 さん（48歳）（営農類型：露地野菜＋水稻）

新規就農までの経緯・背景

大阪で、民間企業（建築関係）に勤めていたが、自然にかかわる仕事をやってみたいという妻の思いにも後押しされ、県の就農セミナーに参加。ブース出展していた豊岡市と出会い、2年間「豊岡農業スクール」で実践的な研修を実施。その後、豊岡市但東町で独立し、就農。

経営発展のポイント

- ・経営1年目に、台風の大雨で農地に土砂が流入し、途方に暮れていたところ、集落の住民から土あげなどの作業支援を受け、集落の一員になっていることを実感。
- ・水稻の農機具は、地域内の農家から中古機械の斡旋を受け、投資額を抑制した。
- ・「農業は孤立したらダメ、将来を見据え、柔軟性を持て」師匠の教えもあって、ネットワークが構築できていたので、就農初期の困難も乗り越えることができた。

資金の活用例

- ① 運転資金
- ② 水稻の乾燥調製設備投資に対する積立



農会長の横谷さん（左）、自分が栽培したお米を持つ中井さん（中央）、（有）あした代表取締役の霜倉さん（右）

今後の取組

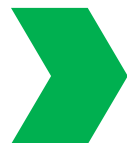
令和4年から水稻で有機JASを取得し、環境に配慮した「コウノトリ育むお米」無農薬米の安定生産を目指す。

集落農業の担い手不足を解消するため、就農仲間を募り、継続的な営農システムの構築を目指す。

経営の推移と今後

経営初期（1～2年目）

水稻 250a
ピーマン 10a



3～5年目

水稻 300a
ピーマン 10a
ニンジン 4a（有機JAS）



現在（6年目）

水稻 400a（有機JAS）
ピーマン 10a
ニンジン 20a（有機JAS）



今後の目標（7～8年目）

水稻 400a（有機JAS）
ピーマン 10a
ニンジン 20a（有機JAS）

- ・平成29年に経営開始
- ・台風により、農地に土砂流入
- ・中古機械導入で初期投資抑制

- ・水稻作付が増加
- ・ニンジンの栽培開始
- ・農業所得は約250万円

- ・ニンジンで有機JAS取得した農家と販売チームを構築し、大手量販店に有利販売

- ・ニンジンの収量アップ
- ・規模と労力のバランスは維持しながら、収量・品質を改善し、所得率の向上を実現

奈良県

農業次世代人材投資資金（経営開始型）

梨子本 亘希 さん（37歳）

（営農類型：果樹）

新規就農までの経緯・背景

美容師として就職したが、20歳のとき、実家の果樹農家の配達を手伝った時に、配達先のお客さんからもらった感謝の言葉がきっかけとなり、就農を決意。実家の経営基盤の一部を継承する形で就農し現在に至る。

経営発展のポイント

- ・『情熱の果樹農家』として積極的なPR活動を展開。ホームページやSNSも頻繁に更新している。
- ・品種に合わせた果実袋や特注の有機肥料の使用、適熟の段階で収穫する「樹上完熟収穫」など、味に直結する仕事にこだわり抜いている。
- ・後継者がいない梨農家から圃場を借り受けて経営規模を拡大し、様々な品種の栽培に積極的に取り組んできた。
- ・農業次世代人材投資資金（経営開始型）を、作業効率向上のための機械整備や、「大阿太高原梨」のPRのために活用した。

資金の活用例

- ・肥料、農薬の購入
- ・スピードスプレーヤー等の機械整備費
- ・広告、宣伝費用



今後の取組

持続可能な食料生産と農業振興のため、これまでは廃棄されてきた梨を有効活用し、各種の加工品として商品化するなどSDGsを実践する。また、新しい品種や果樹の栽培に積極的に取り組んでいく。

経営の推移と今後

経営初期（1～2年目）

梨 238a

- ・平成22年に経営開始
- ・父の経営基盤を一部継承
- ・給付金を機械整備等に活用

3～4年目

梨 238a

- ・ホームページの開設
- ・「大阿太高原梨」のPRのため、テレビ・ラジオ等各種メディアに出演

現在（12年目）

梨 約2.5ha
柿 約1.6ha

- ・加工品の開発に注力
- ・Instagram等のSNSを活用した、積極的なPR活動を継続

今後の目標（15年目～）

梨 約2.5ha
柿 約1.6ha

- ・ミカン栽培への参入を検討
- ・これまでとは異なる、新しい宣伝方法で、「大阿太高原梨」もっと多くの人に知ってもらいたい

山本 祐示 さん（32歳）

（営農類型：露地果樹）

新規就農までの経緯・背景

農業大学校を卒業後、アメリカで1年6か月の農業研修過程を修了。帰国後、家族の柑橘の苗木栽培経営とは別に果樹を中心とした農業を展開するため、独立し就農する。

経営発展のポイント

- ・知人や近所の離農する方から成木園地を賃借し、即収穫・販売することで確実な収入につなげ、1年目から5年間継続して農業所得目標を達成している。
- ・資金と補助金を活用し、園内の整備や柑橘類の定植、耕作放棄地の活用に積極的に取り組み、経営開始当初は61aであった経営面積を5年後には、166aまで拡大している。
- ・地域の担い手協議会に参加し、農業者同士の情報交換や農産物販売促進活動を行うことで自身の農業技術向上や地域農業との関りが深まった。

資金の活用例

- ・生活費
- ・肥料、農薬、苗木購入等の農業経費



今後の取組

- ・耕作放棄地を活用して、計画的に柑橘の新植をすすめ、経営を安定させる
- ・父親の苗木栽培を継承する

経営の推移と今後

経営初期（1～3年目）

柿 22a
みかん29a
すもも10a

- ・平成25年に経営開始
- ・耕作放棄地に柑橘苗を新植
- ・3年目の農業所得は233万円

4～5年目

柿 49a
みかん89a
すもも11a
柑橘 17a

- ・直売所への販路を拡大する
- ・5年目の農業所得は321万円

現在（9年目）

柿 49a
みかん89a
すもも11a
柑橘 17a

- ・新植していた柑橘の苗木が成長し、収穫量が増えてきている

今後の目標（10年目～）

- ・今後も耕作放棄地を活用し、計画的に柑橘の新植を行う
- ・父親の苗木栽培を継承する
- ・経営規模の拡大に伴い、常時雇用の採用を検討中